

決意

福島に風は吹く

福島に星は瞬く

福島に木は芽吹く

福島に花は咲く

福島に生きる

和合 亮一 作
(「決意」から抜粋)

市民7刊

ふくしま  通信

No.8・2011年 秋号

福島を語り、福島を聞く 言葉の力で福島と世界をつなぐ



Ryouchi Wagou PROFILE

1968年福島市生まれ。詩人。高校の国語教師。第1詩集「AFTER」(1999年)で第4回中原中也賞を、第4詩集「地球頭脳詩篇」で第47回土井晩翠賞を受賞(2006年)するなど、現代詩の旗手として活躍しているほか、言葉を通じた街づくり活動などを展開。2007年には、福島市制100周年記念讃歌の作詞も手掛けた。近著に、本年3月16日の最初の詩作から5月25日の「決着の詩」までツイッターに発表した詩を全文掲載した「詩の魂」、続編として福島で眠る魂を「悼む」ために紡いだ「詩ノ黙礼」、被災者との対話から生み出された新たな詩の言葉を書き下ろした「詩の邂逅」がある。

せきを切ったようにあふれ出る 魂の言葉をツイッターで発信

「ツイッターを始めたのは、とにかく生きた証しを残したいと思ったことがきっかけでした」。3・11を境に、それまで自分の中にあつた「絶対」が音を立てて崩れていくのを感じたという和合さん。同時にこれまでやってきたことや自分自身までもが奪われてしまったような気持ちになったそうです。計り知れないダメージ。自分自身に対する誇りまでが奪われ、余震におびえながら小

さくなっていく自分。そんな時、脳裏に浮かんだのがツイッターでした。「読まなくてもいい。夜空に向かって叫ぶような気持ちで書き始めました」。せきを切ったようにあふれてくる魂の言葉は、瞬く間に多くの読者の心をわしづかみに。そして、リアルタイムで世界中から届くメッセージが、和合さんの力となりました。「むさぼるように読みながら書き、書くことで自分自身があきらめられない」とか「絶対に生きる」などのメッセージになりました」



詩人
わごう りょういち
和合 亮一さん

福島の人を感じ何を感じるか 世界中の人が待っている

今年6月、絶望と希望の間を揺れながら書き続けた作品が、詩集「詩の魂」などとして刊行。他にも国内外のイベントでの詩の朗読や、8月には福島ゆかりの音楽家など有志と共に「プロジェクトFUKUSHIMA!」を開催するなど、精力的に活動されています。

震災後の活動で、和合さんは「語る」と「聞く」の大切さが見えてきたと言います。「オランダで大震災追悼コンサートに出席した時確信しました。世界中が、福島の人たちが何を感じ何を話すのか注目しています」。特に放射能の問題は、社会全体の問題。そこに、「どう、言葉が突き刺さっていくか。福島を語り、福島を聞くことは、先の見えない扉を開く鍵を見つけるヒントになる」とも。

震災から半年。言葉を失った被災者の分まで思いを書き続けてきた詩人・和合さん。「これからです。ここから始まる。発信を続けながら、震災後の福島の文化を作っていくのです」。その最前線に、今私たちは共に立っています。



▲8月7日に開催された「第33回ふくしま花火大会」で、この日のために書き下ろした詩「追悼」を朗読



▲「プロジェクトFUKUSHIMA!」を前に和合さんが主宰した「詩の学校」。詩作を前に参加者がそれぞれの思いを語り合い、用紙に書き込んでいく



▲「詩の学校」で紡ぎ出した連詩を、8月15日に開催された「プロジェクトFUKUSHIMA!」で披露。会場となった「四季の里」に全国から多くの人が集まった

「くだもの王国 ふくしま」をPR!



福島市産果物のPR活動を、首都圏をはじめ全国で積極的に展開しています。市長を中心にミススピーチキャンペーンクルーが、トップセールスとして市場やスーパーマーケットなどで本市の農産物の安全性とおいさを届ける活動もその一つ。

また、東京・新宿駅と福島市を結ぶ高速バスの車体に「くだもの王国 ふくしま」のフルーツや豊かな自然などをアピールする広告を掲載した「ラッピングバス」を12月末まで毎日運行しています。



▲新宿駅→福島駅を毎日2往復運行している

東北大学と連携し、安全性を確保

「くだもの王国 ふくしま」を守るため、市では国際的に評価の高い放射線専門の研究所を擁する東北大学の全面的な支援をいただき、「東北大学福島第一原子力発電所事故対策本部福島市分室」を設置しました。専門職員が常駐し、農産物の放射能測定を実施。安全性の確保と風評被害払拭を図ります。



福島農家は負けない いつも胸の中にあるのは「希望」です!

参加しました。福島市のモモは、どこにいても好評でした」
「福島は、負けないよ。いつも胸の中にあるのは希望。来年こそ、来年こそって夢を語りながら寒風の中で剪定をし、手塩に掛けて育ててきた果物だからね。人のせいにはしないで、苦しいときこそ努力し続けることが大切」と話す吾妻さん。
全国から届く温かい応援メッセージに精いっぱい応えるべく、実りの秋、今日も畑に向かい果物たちと向き合います。

動けば道は開ける
福島市郊外を走るフルーツラインに立ち並ぶ観光果樹園は、食べ頃を迎えた果物を狩り取りできる人気のスポット。福島市観光農園協会の顧問を務める吾妻一夫さんの果樹園にも、果物狩りを楽しむ大勢のお客様が毎年全国各地から訪れます。



福島市観光農園協会 顧問 吾妻一夫さん

決意 和合 亮一

福島に風は吹く
福島に星は降く
福島に木は芽吹く
福島に花は咲く
福島に生きる

福島を守る
福島を取り戻す
福島を手のうちに
福島を生かす
福島に生きる

福島を愛する
福島を誇る
福島を信ずる
福島を歩く
福島を生きる

福島を誇りに思う
福島を子どもたちに手渡す
福島を抱きしめる
福島と共に涙を流す
福島に泣く

福島は私です
福島は家族です
福島は人生です
福島はあなたです
福島は父と母です
福島は子どもたちです
福島は青空です
福島は雲です

わごう・りょういち 1968年福島生まれ。福島市在住。詩人。高校の国語教師。『After』（思潮社）で中野中也賞受賞。『地球運命詩集』（思潮社）で晩稲賞受賞。現代詩の旗手として、イベントやラジオなどで幅広く活躍。ツイッター @twitter/wago2828。

市長からのメッセージ ~安全・安心な農産物をお届けしています~

皆様にお届けしている福島の農産物は、福島県が実施しているモニタリング調査のほか、福島市が東北大学の協力を得て実施している独自の放射性物質の調査により、国が定めた暫定規制値を下回っています。これからも福島の農産物をご利用いただき、一日も早い復興をめざしてがんばっている農家の皆さんを、どうか応援してください。

福島市長 瀬戸寿則

▲放射能を測定し安全が確認された福島市産農産物には、和合さんの詩と共に市長のメッセージを載せたチラシが添えられている

▼福島の未来を担う若者が畑で収穫した「ナジ」を、一つ一つ真心とチラシを添えて箱詰めします



ところが今年の春は、原発事故の影響で来園者数が大幅に落ち込み苦しい思いをすることに。それでも下を向いてははも始まらないと、吾妻さんをはじめ観光農園協会の役員で首相官邸や農林水産省、消費者庁を訪れ風評被害対策を直訴しました。

また、観光農園協会の開園式には内閣府副大臣を招くなど、県内外において「くだもの王国」福島市のPR

Rに努められました。「動けば必ず道は開かれます」と吾妻さん。
「こんな時だからこそ応援させてほしい」と福島市に駆けつけてくださる方、「福島を支援したい。ぜひ、うちのイベントに果物を持ってきてくれ」と電話を下さる方。福島市を応援して下さっている方がたくさんいることを本当に実感しました。
7月、8月と千葉や東京で開催されたさまざまな復興イベントにも幾度となく

全国から届くメッセージに
元気をもらいながら

子どもたちの明るい声が
街に再び響くために。
力を合わせ闘います。

渡利地区町会連合会長
穴澤 健夫さん

7月の地区除染では、「自分たちがやらなければ」という切実な思いを、地区の皆さんが共有していると強く感じました。元通りの街に一日も早く戻せるよう、行政と役割分担をしながら、皆で力を合わせ除染に取り組んでいきたいと思います。



▶7月に行った渡利地区の除染。住民と市の協働により、側溝の土砂上げや通学路の洗浄、住宅の除染実験などを実施した



福島再生

ふるさとと福島市を取り戻せ！ 市民の皆さんとともに

3月11日に発生した東日本大震災は、福島市に深い爪跡を残した。しかし、福島市は負けない。ふるさと福島市を守るため、困難に挑み続ける人々の軌跡を追った。

マグニチュード9.0 未曾有の震災発生

早春の穏やかな午後だった。3月11日午後2時46分。福島市を、これまで経験したことのない、強く長い揺れが襲った。あさひ台団地で避難指示が出るなど、各地に甚大な被害が発生。余震も続く中、市民は不安と混乱の中に置かれた。東北地方一円に水を送る福島地方水道用水供給企業団の巨大な送水管が破断し、市内全域が断水。各所に設けた臨時給水所には、どこも長蛇の列ができた。大規模な被害の復旧や応急給水作業に、地元水道業者と



▲のり面が崩れ、甚大な被害を受けたあさひ台団地（伏拝）

放射能災害を乗り越え ふるさとへの復興へ

震災と共に、福島市を襲った「放射能」というもう一つの災害。原子力発電所で起きた水素爆発のニュースに、人々は凍りついた。未曾有の災害に、定まらない国の対応。人々に高まる不安と不信。市は、市民の安全と安心を守るため、放射能という未知の敵に対して、独自に闘うことを余儀なくされた。子どもたちを守るため、全ての小・中学校、幼稚園・保育所などで実施した校・園庭の表土除去。住民の皆さんと協働で7月に行った渡利地区の除染。その後も、大波地区の除染や、除染方法確立のための実験など、「市内全域の除染」という目標に向け、取り組みを一つずつ積み重ねてきた。

かつてない危機を乗り越え、皆が安心して、心豊かに暮らせるまへ。ふるさと福島市復興へ、市民と行政が一丸となった、福島を愛する者たちの挑戦は、これからも続く。



(上) 子どもたちの安心な暮らし確保のため、全ての小・中学校、幼稚園・保育所などで、校・園庭の表土を除去
(下) 渡利の公園で行った除染実験。放射能対策アドバイザーの指導の下、処理に必要な汚染土を減らす方法を検証した

皆様からいただいたご支援に 心より御礼を申し上げます

このたびの震災に際して、多くの皆様からたくさんのご支援をいただきました。厚く御礼申し上げます。

これまで寄せられました物資と義援金は、被災された皆様への支援に使わせていただいています。



市民の皆様が、一日でも早く「安心できる暮らし」を取り戻すため、全力で取り組んでまいります。

引き続きご支援とご協力をお願いします。

福島市長 瀬戸 孝則

～復興のため、ご協力をお願いします～

元気ふくしま・ふるさと寄付金

福島市では、ふるさとを思う気持ちとしていただいた、ふるさと納税「元気ふくしま・ふるさと寄付金」制度を活用し、まちづくりや福祉の充実を図っています。今回の震災により被害を受けた学校や文化施設などの復旧・復興を図るため「ふるさと・復興応援」の分野を新たに設けました。

■寄付金は下記の事業で使わせていただきます。

- ① 学校施設補修事業／被災した学校施設の補修・修繕を行い、児童・生徒が安全で安心して学べる環境を復旧します。
- ② 文化財・文化施設の補修事業／永く受け継がれてきた貴重な文化財や市民の文化活動の場である文化施設の補修・復旧を行います。

問い合わせ 市民税課 ☎ 024-525-3713

ふくしま 秋のイベント・お出掛け情報 Information



■ 連山車 (福島稲荷神社秋季例大祭)
10月9日(日) ●ところ…駅前通り
[例大祭] 10月8日(土)～10日(祝)
●問い合わせ
福島稲荷神社 ☎024-522-2702

■ くだもの王国“ふくしま”の秋の味覚を満喫

市内にはフルーツライン沿いを含めて約50もの観光果樹園があり、秋にはブドウ・ナシ・リンゴなどの果物狩りが楽しめます。

観光果樹園は入園料金は全て共通で、30分間食べ放題です(ただし果物によって料金は異なります)。果物の一番おいしい食べ方は、なんといっても“もぎ立て”を食べること。

ぜひ、ご家族でお楽しみください。

[果物狩り入園料]

■ ナシ (10月中旬まで)
大人……500円、小人……400円

■ ブドウ (10月中旬まで)
大人……700円、小人……500円

■ リンゴ (12月中旬まで)
大人……500円、小人……400円

● 問い合わせ
福島市観光農園協会 (農業振興課内)
☎024-525-3727

ナシ・ブドウ・リンゴ 収穫カレンダー

	10月	11月	12月
二十世紀	●		
巨峰	●		
ジョナゴールド		●	
陽光		●	
王林		●	
ふじ		●	●

CONTENTS

2 福島再生

福島を語り、福島を聞く
言葉の力で福島と世界をつなぐ

詩人 和合 亮一さん

4 福島再生

福島農家は負けない
いつも胸にあるのは「希望」です!

6 福島再生

ふるさと福島市を取り戻せ!
～市民の皆様とともに～

※春号・夏号は発行を休止しました

市民フォト・ふくしま夢通信

平成23年10月1日発行 No.8 2011年 秋号

ホームページもご覧ください ▶

福島市

検索

クリック

編集
発行

福島市役所 広報広聴課

〒960-8601 福島市五老内町3-1
☎024-525-3710 FAX.024-536-9828

E-Mail:kouhou@mail.city.fukushima.fukushima.jp